

《IFTA2013サンフランシスコ大会に参加して》 (IFTA大会のメリット・デメリット)



岐阜信用金庫 市場国際部
副調査役 酒井 慶喜

[メリット]

1. 世界から見た日本が分かる

日本で読むニュース・レポートも参考になりますが、「なんとしてでも儲けたい」と貪欲に考えている外国人投資家達の考えを生で知ることが出来ます！

また、海外の方からも、色んな意見を求められたりしますので、国を跨いだ情報交換が出来ます。



2. 日本人というだけで、ちょっとした先生気分になれるかも

日本では有名な一目均衡表は海外ではちょっとしたブームになっているらしく、(自分の場合は)海外の参加者から“Ichimokuの何を見ている？”“どういう分析スタイルか？”といった質問をうけたりします。私は英語が苦手ですが、名刺を渡しなが、身振りと言の英語で説明できたりしただけで、ちょっと優越感に浸れました！



3. 日本人参加者とのネット・ワーキング

英語が苦手でも、日本人参加者が必ずいます！私は前回、今回と日本からの参加者が複数名いてくれたおかげで、だいぶん気が楽になりました。大会主催者による晩餐会がない日は、日本人参加者だけのミーティング(サンフランシスコでは、再来年の東京開催をいかに成功に導けるかについて、熱い議論を交わしました)がありました。

日本にいても、会えない人に、IFTA大会では巡り会えます！

4. 外国人のプレゼンや、世界で通用するメイド・イン・ジャパンのプレゼンを生で見ることができる

私の場合、MFTAに合格できたひとつの要因がIFTA大会でのプレゼンを肌で感じる事ができたことです。言葉で上手に言い表せませんが、独特の雰囲気があります。半ば強引に見えても、自分の考えを伝える手法は、日本で聴いているセミナーとは全く違います。

同様に、日本からの参加者によるメイド・イン・ジャパンのプレゼンも、見せ方が違います。国際的とは、こういうことなんだと思いました。岐阜のような田舎に住んで、仕事もデスクの上が中心の自分にとっては、衝撃的でした。見逃したりしても、ビデオやプレゼン資料は参加者限定で入手できるため、復習できます。

2次試験は自分の相場分析のスタイルが確立出来ないと、合格は困難かと思えますし、3次試験は、それプラス、理論のプレゼン能力が問われると感じました。

上位資格へのトライを考えているのであれば、是非、参加すべきです！

「足りないものは何か？」が見える筈です。



[デメリット]

1. 仕事と家事と休暇のバランスをどう取るか？

私の場合、もっともきつかったのは、10月初旬という開催時期でした。外国為替事務全般を管理しているため、仮決算の会計処理や貿易事務の繁忙期に入るため、職場の同僚達との業務上の調整が少々難しかったため、大会参加前後は殺人的な事務をこなす必要がありました。また、夫婦共稼ぎのため、家事・育児を妻に全て押しつける結果となったのも、ちょっと心苦しかったです。

2. 英語が苦手だと、ちょっときつい

基本的に国際的な集まりなため、英語が基本です。昨年のシンガポール大会では日本語同時通訳がありましたので、プレゼンの内容は理解できましたが、今年のサンフランシスコ大会は日本語同時通訳のニーズが少ないとのことでサービスは中止になりました。その結果、英語のヒアリングが苦手な私は、プレゼンを完全に理解できませんでした。

もっともプレゼン資料はチャートが主です。チャートには言語の違いはないため、理解可能です。また、プレゼン資料の文章は少ないため、辞書片手でも対応可能です。



〔 参加することを、どう考えたか？ 〕

私の場合、「参加しないことによるデメリットは何か？」を考えました。

参加しない → 職場・家庭には迷惑かけない → 自分にプラスにならない(得るものは無い)
→ このまま、日常生活を淡々と過ごす

つまり、参加しないデメリット = 本やネットでは得られない出来事に出会えない という結論でした。

もしかしたら、とんでもない出会いがIFTAで待っているかもしれない。その思いが、MFTA合格とジョン・ブルックス賞に繋がったことは、間違いありません。



〔 今回の感想 〕

前回のIFTA2012シンガポール大会は、サポーターとしての参加でしたが、今回のIFTA2013サンフランシスコ大会は、タイトルホルダーとして参加しました。

MFTAに合格できた要因のひとつは、IFTA2012でした。カンファレンスの雰囲気が忘れられなかったことと、今回は、自分がジョン・ブルックス賞受賞者で、授賞式が行われるとのことでしたので、一生に一回しかない機会を逃すわけにはいけないという思いで、IFTA2013に参加しました。



10月のサンフランシスコは、朝・晩が意外に寒く、寒暖アレルギーを持っている自分には、少々厳しい気候でした。渡米中は、アメリカの財務問題で、政府系機関が一部閉鎖されているとのことでした。確かに、TVでは“シャット・ダウン 〇〇日目”のような感じのニュースをやっていましたし、美術館なんかも休館していましたので、その影響を感じることはできましたが、逼迫感はあまり感じませんでした。むしろ、“米国債の金利が下がっているのは、そういうことだろ？”とデフォルトなんてするはずがないといった感じで話してくれたアメリカ人の自信満々の顔の方が印象的でした。

街にはケーブルカーが走り、心を折られてしまう急勾配の坂、日本とは明らかに違う町並み、「へえー」という言葉しか出なかったゴールデン・ゲート・ブリッジ。前回のシンガポールと同様に、観光に費やす時間はごくわずかでした。しかし、少ない時間でちょこちょこ見



るのが好きなので(観光目的だと、間延びしてしまい、楽しさが半減してしまう質なので・・・)、わずかな時間でも、自分にとっては有意義な観光時間でした。

カンファレンスの内容は、昨年とは様子が違っていました。今年はパネル形式のものが多く、プレゼンターの数も多かったためか、色々なものが、ぎゅうぎゅう詰めになった印象がありました。目新しいと感じるものは少なかったのですが、相変わらず外国人のプレゼンターの強引なプレゼンは勉強になりました。

また、参加者限定で後日、プレゼン資料やビデオがネットで閲覧できるため、聞き逃した(私は、初日の夕方、現地に着いていますので、前半部部分是不参加)ものや、もう一度、見たい資料なんかは入手できるので、とても便利です。

授賞式の方も、なんとか英語でのスピーチをし、参加者からも笑いをとることができました。大会全般を通して、昨年同様、得難い経験ができたと思っています。

来年はロンドン、再来年は東京で開催されますが、一人でも多くの方にIFTA大会に参加してほしいと思っています。IFTAのニュース・レターやネットで紹介はされていますが、見るのと参加するのでは、全く違います。

IFTA大会は、日常生活では得られない宝物が、沢山眠っています！





The Nippon Technical Analysts Association

3-3 Kabuto-cho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, Japan 103-0026
Phone 03-5847-2231 Fax 03-5847-2232 E-mail office@ntaa.or.jp